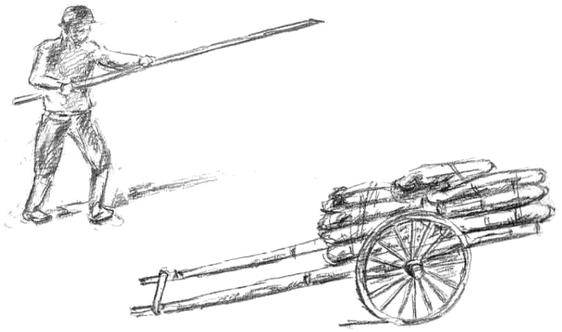
ちょっと昔の浜吉田西

子どもの頃は荒っぱしく育てられた。
当時、尋常小学校６年を終えて高等小学校へ、それから私は亘理農蚕学校に入った。戦時下で教室での授業よりも、校庭に出て竹やりを持って敵を倒すとか、そんなことばかりさせられたように思う。
３年生の時に終戦となった。すると途端に食糧事情が悪くなった。

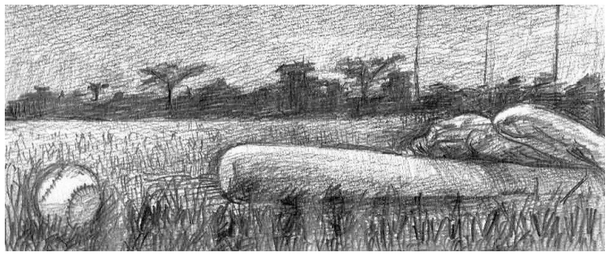
終戦直後頃の食糧配給 （亘理町史 下巻より）

食　　品	配給量(一人当たり)	現在の単位
米	1日　　2合1勺＊	378ml、2カップ弱
味噌	1か月　100匁	375g(グラム)、1.6カップ
醤油	1か月　1号5勺	271ml、1.36カップ
塩	1か月　100グラム	大さじ5.6杯

＊主食代用にジャガイモ、サツマイモ、大豆、豆粕などが配給されると、その分だけ米の配給は減らされる。



スーパーに行けば何でも自由に買える今と違い、配給制という不自由な時代だった。
店を営んでいた私の家では、亘理の山田屋や永田屋に味噌、醤油を仕入れに行き、馬車に積んであちこちの地区に配った。そんなわけで、とても忙しくなり、学校をやめて家業を手伝わざるを得なくなった。店はプロパンガスも扱い、店員を何人も雇い忙しく働いた。



その頃、浜吉田界隈はとても賑やかで色々な店があった。今の農協があるあたりに日通があり、沢山の野菜が集まり東京方面に出荷していた。
浜吉田で思い出す景色に野球場がある。今は公園になっているあたりにウチの田んぼが7反あり、そこを埋め立てて作ったのだ。
現在、浜吉田は3区に分かれているが、以前は一つの区でいろんな活動を一緒にやった。その当時の名残りで今でも３区合同で、盆踊りも山神社のお祭りも一緒にやっている。
横田　尚さん（昭和８年生まれ）に伺いました。（佐々木）

編集長のつぶやき

「四年ぶりの〇〇」というニュースに接することが多くなりました。「東部まち協」も予定した活動を行なえています。
参加者数もコロナ禍前と同程度になり、大変喜ばしいことです。一方、先日テレビで県知事が「病床の使用状況は半分埋まってきており、重症者が発生している。」と述べておられました。ですから、無条件で開催とまではいかず、熱中症に注意しながら、これまで同様適切な感染対策が求められています。この状況は今後もしばらく続くでしょうから、私たちスタッフはさらなる工夫が必要です。地域の皆さま、身近な話題や様々なアイディアをお寄せくださいますようお願いいたします。（佐々木）

次回は令和５年 12月１日発行予定です

鳴り砂だより

吉田東部地区まちづくり協議会

広報誌 No.48

8月

発行日　令和５年 ９月 １日
編　集　吉田東部地区まちづくり協議会
住　所　亘理町吉田字大塚 185
電　話　0223-36-8831
ＦＡＸ　0223-36-8832
Ｅmail　wa.tukuri.yt@ia9.itkeeper.ne.jp
発行責任者　福本　眞

令和５年度　４月～７月までの事業報告

春の交通安全啓発運動、普通救命講習会、いちごジャム作り、第10回 吉田浜海岸クリーンアップ作戦、いきいき健康講座、吉田浜海岸ウォーキング＆自然観察会を開催しました♫
８月以降も皆さまに楽しんでいただけるイベントが盛りだくさんです！ ご参加、お待ちしております♫

～防災豆知識～
「北海道・三陸沖後発地震注意情報」について

「北海道・三陸沖後発地震注意報」、この耳慣れない用語は、気象庁が **2022 年１２月から運用開始**した新しい注意情報です。今回はこの注意情報について、その意味と危険度について紹介します。

日本海溝・千島海溝沿いの領域は、普段から地震活動が高く、巨大地震の発生に注意が必要です。また、マグニチュード（M）７クラスの地震の発生の後、数日程度の短い期間をおいてさらに大きなＭ８クラス以上の地震が続いて発生した例も確認されています。このような場合を想定して、ある程度以上の地震に対して、後発する巨大地震に対する注意を促す情報として、この注意情報が発表されます。

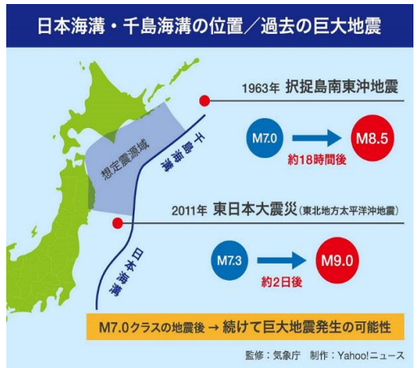


図１　後発地震の発生事例

読者の方々は 2011 年３月１１日の日本海溝沿いのＭ９.０の巨大地震（**2011 年東北地方太平洋沖地震**）の約２日前、３月９日にＭ７.３の地震が発生していたことを記憶していることと思います。また、千島海溝沿いでは、Ｍ７.０の地震の約１８時間後にＭ８.５の巨大地震（**1963 年択捉島南東沖地震**）が発生していました（図１）。1904 年から 2017 年までの約 100 年の間に世界中でＭ７.０以上の地震が 1477 回発生しましたが、このうち５００㎞以内で１週間以内にＭ７.８以上の後発地震が発生した例は、前の２例を含めて１７回ありました。約１００回に１回の確率です。確率 1%が大きいと思うかどうかは意見が分かれるところですが、地震発生についての確率としては、決して小さいものではありません。そこで、気象庁は千島海溝・日本海溝沿いの**想定震源域に影響を与えそうな M7.0 以上の地震の発生があった場合に、後発地震に対して注意を促す情報**を発信することとしたものです。このうち、日本海溝沿いの地震に対して予想される津波の高さと地震の震度は図２のように、岩手・青森両県下で最大津波高約３０m、最大震度は青森県下で震度６強となります。

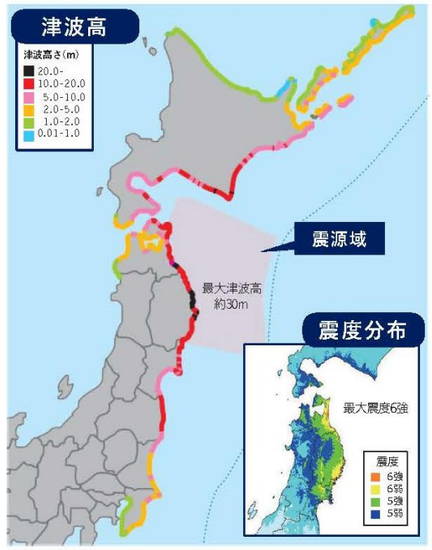


図２　想定される津波と震度
（日本海溝沿いの地震）

この注意情報が発信された場合、**１週間程度は続いて発生する巨大地震の可能性**がありますから、想定される甚大な被害に対し、備えの再確認や迅速な避難態勢の準備が必要です。しかし、情報の発信は、必ず巨大地震が発生することを予測していることではない事にも注意が必要です。また、１週間が過ぎたら安心という性格のものでもありません。

もともと、この海域は突発的な巨大地震の可能性が大きなところです。日頃から大地震、大津波への備えが大切です。

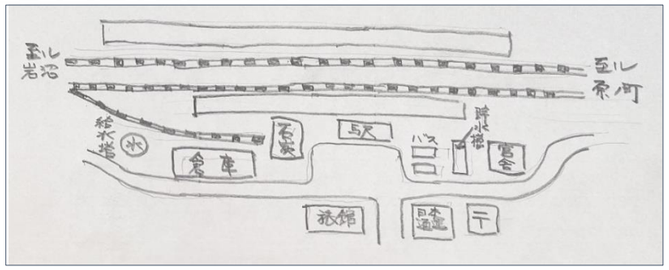
図と解説は気象庁ホームページによりました。（三品）

おらほのまちの玄関“浜吉田駅”No.１

広報わたり４月号に、令和５年（２０２３年）４月１日をもって浜吉田駅は無人駅となりました、と掲載されていました。しかし！そんな駅に新しい住民（？）が来ました・・・
それは、可愛らしいつばめの親子です♪そこで少し、浜吉田駅の歴史を調べてみました。

【開　　業】明治３０年（1987 年）１１月１０日
【建　　設】私鉄日本鉄道
開業当時は「海岸線」「磐城線」と呼ばれていました。
地形も平坦で雪も少なく、次第に重要な幹線になっていきました。
開業当初は名称を「吉田駅」としていましたが、大正４年（1915 年）６月１日付けで「浜吉田駅」に変更されました。
駅舎は当時からのもので１２５年の歴史ある建物です。
昭和４２年（１９６７年）常磐線全線電化され、当駅周辺も交流電化となりました。

電化以前の浜吉田駅にはＳＬ（蒸気機関車）の操車場があり、燃料や水の補給が行われていたそうです。
（亘理町史　民俗編より）



昭和３０年代の駅の様子

次回は、大正から昭和にかけて駅の役割や当時の運賃、浜吉田駅発着のバス路線などをお届けします。（若林）

『鵜呑み』（うのみ）

鵜呑みとは、物事の真意を確認しないで信じてしまう事、とありますが、当事者の「鵜」に聞いたら？魚と判断した時に呑み込むらしく、海鵜にいたっては、毒のあるフグなどは小さくても呑み込まないらしいです。

現代のネット社会では見せ掛けが巧妙で、私たちはつい相手の話を**「鵜呑み」**にしてしまうことが多い。

日頃から、これは真実かよく確認する！迷ったら役所等に相談してみる〔まちづくり協議会に相談する〕などして真意を見極める努力も必要かもしれないです。
家人を名乗る電話を鵜呑みにして、せっせと貯めた老後の資金を騙し取られては、途方にくれてしまうばかりです。

そういえば、50年前に「この娘（こ）はおとなしいですよ。よく気も利くし。」と、紹介されたうちの嫁さん。今では、私を尻に敷くやら、わが道を自由自在に突き進む雄姿？には感心することしきりです。私が存命のうちに、せめておしとやかな姿を拝見したいものです。

あの時、紹介者の言葉を**「鵜呑み」**にさせ、私の判断を狂わせる別の魅力があったのでしょう。
ともかく、家庭は平穏なので良しとしましょう。（髙倉）